



これは便利！iOSアプリ活用術

鈴江病院 脳神経外科 七條 文雄

<5> 臨床検査対応 app

はじめに

血液検査において、【ビタミンB1、ビタミンB12、葉酸、血中アンモニアと通常の肝機能検査のオーダー】をしたとします。すると、看護師さんから、『先生、血液はどの容器に入ればいいですか？』と聞かれることがあります。この様な時に、皆さんはどう対応されるでしょうか？外注検査の場合の対処法として、『そこにある検査機関からのマニュアルを調べてみて。』とか、『検査機関に電話して聞いてみて。』とか、「皆さんご自身がマニュアルを調べてみる。」などの対応があるかと思います。また、「この検査値の正常値は？」とか、「検査値が異常値を示して帰ってきた場合の臨床的意義は？」とか、「この疾患に疑いを持った場合の適切な検査項目はこれで良かったかな？」、「この検査法の保険適応病名（レセプト病名）は？」などと疑問を持たれることも臨床現場では多々みられるかと思います。今回はこれらのことを解決する一手段となる臨床検査機関から提供されているアプリ（App）を4本紹介します。

1) 4本のアプリの紹介

図1に臨床検査機関から提供され、ネット上に公開されている4本のアプリを紹介しています。SRL、BML、FALCO、LSIMから提供されている無料アプリです。これらは、iOS版とAndroid版があるため、iPhone、iPod touch、iPadのみならず、Android系のスマホやタブレットを使用されている方も利用できます。



【図1：4本の臨床検査機関からのアプリ】



2) 利用方法

図2と図3は、【ビタミンB1】と【ビタミンB12】の検査項目を例にあげ、その基本情報と提出容器を図示したものを、4本のアプリで比較表示したものです。

図4は、4本のアプリにおけるビタミンB12の臨床的意義の内容を比較したものです。

この他、これらのアプリでは、検体の材料（血液、血清、血漿、尿、糞便、髄液、分泌物など）、検体の必要量、検体の保存方法、統一コード、検査方法、基準値（単位）、検査所要日数、実施料、判断料、レセプト名（保険収載検査名）、レセプト病名、異常値を示す疾患と病態などが明記されています。



【図2：4本のアプリでのビタミンB1の基本情報と提出容器の比較】



【図3：4本のアプリでのビタミンB12の基本情報と提出容器の比較】



【図4：4本のアプリでのビタミンB12の臨床的意義についての記載内容の比較】

おわりに

今回は、臨床検査の検査案内に関するアプリを4本紹介致しました。皆様の日常診療に少しでもお役に立てば幸いです。